

～毎日が「福」である 福よし～ 「福ふくの里」を拠点とした都市住民との交流が農村・漁村・高齢者に活気をつくる

福吉地域づくり推進協議会（糸島市二丈福吉）

【地域協議会構成団体】 地域行政区長、JA糸島福吉支店、地域づくり推進委員、直売所（福ふくの里）、JF糸島福吉支店、商工会、観光協会、安全協会、糸島市（事務局）

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成28年3月

- 各行政区から選定された委員（18名：3名/6行政区）で構成される元気づくり事業推進委員会及び福吉地域づくり推進協議会役員で会議を開催（全6回：ワークショップの実施等も含む）。
- 福吉に移住してきた人をパネリストとした公開シンポジウムを開催。参加人数94名。
- 将来ビジョンの策定と併せて、各行政区毎のビジョンを「福吉未来マップ」と称し、全戸配布。



【ワークショップの開催】



【福吉未来マップの配布】

2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- 農地や施設等の有効活用：体験農園の開設 H28は8組21名が参加。H29は11組22名が参加。H30は不作により収穫体験に変更。
収穫体験の実施 H29から開始。のべ51組121名が参加。H30のべ130組364名が参加。

II 農林業の所得や雇用を増やす

- 農林水産物の付加価値創出：地元発祥の柑橘類「はるか」を使ったスイーツ等の加工・販売。H29の販売額は65万円。H30は522万円。きよみサイダーH30の販売額は33万円。鯛を使用した加工品の試作。
- 農林水産物の集荷・販売：出荷困難者支援。H28は集荷額140万円、H29は164万円、H30は300万円に増。

III 地域の人口を増やす

- 移住・定住者の確保：SNSを中心とした地域情報の発信。H29：ブログ14件、FB17件 H30：ブログ13件、FB146件
店舗等を伴う移住者 H29は6人。H30は1人。体験農園利用者の移住 H29は1件、H30は0件。



【「はるか」を使った商品】



【集荷用保冷庫の購入】

3. 今後の展望

● 地域の魅力を発揮し、福吉のファンを増やしていく

- 農業後継者育成のため、体験農園を通じたお試し農業研修の充実や、魅力あるメニューの提案で参加者の確保に努めるほか、就農希望者の地域単位での受け入れ体制を検討する。ただし、園地管理に係る人件費が大きいなど課題も多く、需用は大きい。農地確保や人材育成を進めないと継続は難しい状況である。
- 「はるか」の生産者が少なく、材料不足など6次化商品の拡充に向けた課題はあるが、確実な販路を確保した上での作付を推進する。また、水産物を利用した商品開発も進め、漁業の所得向上も図っていく。
- 出荷困難者への集荷支援と併せて、買物弱者への支援に力を入れていく。
- SNSや直売所での地域おこし協力隊による福吉の情報発信を強化し、都市からの訪問や移住に繋ぐ。

